

愛護会活動をやめたいと思ったことありますか？

「朝、ゴミを拾ったのに翌日公園に行ってみると、もうベンチの周りなどゴミだらけだった」、「草刈をしても、砂場で遊んでいる親子は知らん振り。『誰のためにやっているんだ』と思わず口にしそうになった」、「以前はたくさん参加者がいたが、高齢化などで一人減り、二人減りと、ここ数年は2人、3人で活動しているが、もうみんなからだがきつくなってしまった」。こんな感想をお持ちの愛護会は数多いと思います。

事実、平成16年度に実施したアンケートでは全愛護会の約3%の愛護会が「活動を休止したい」、2%の愛護会が「活動を縮小したい」と答えています。また、参加者が減少する傾向や、地域の人が無関心な状況は、活動をやめたいと思う愛護会だけに当てはまるものでもないのも事実です。

今回の記事では、活動のパターン別に、ここ数年間で実際にあった事例を基に活動を活性化させた事例を紹介します。

地域での話し合いや協力により、参加者が増え、愛護会が活性化した例

土木事務所に活動報告書の提出がなかったため、公園愛護会等コーディネーターが会長宅を訪ねました。

「最近老人会も解散状態になってしまい、実質一人で愛護会活動をしている。地域の人たちも手伝ってくれない。」と、会長は現状をお話になりました。

コーディネーターは「私が自治会長に相談して良いですか」と了解を得た上で、自治会長に相談しました。

「実は、愛護会長お一人で活動しているのは分かっていた。手伝おうとも思ったが、なかなかきっかけがなかった。」と、自治会長は話されました。

そこで、コーディネーター立会いのもと、話し合いをして、自治会中心で愛護会活動を行うことになりました。

その後は、参加者が増えたり、花壇づくりや花の手入れをするなど活動が活発になりました。

皆さんの周りにも、本当はお手伝いしたいと思っている方がいるかもしれません。いろいろな方に声をかけるなど、参加方法を見直してみると、より楽しく活動できるのではないのでしょうか。

みんなのチームワークで、愛護会解散危機を見事乗り越えた例

高度経済成長期に開発された住宅地で、最近高齢化が急激に進んだ地域にある公園。町内会で街に関するアンケートをとりました。

「愛護会を解散したい」という意見が6割を超えました。高齢化して活動ができないという理由です。

そのアンケートを行った町内会長はその状況に驚きました。そして、町内会の会合でこのように呼びかけました。

「高齢化が激しいからやめたいといっているが、それは日本の多くの地域に共通する問題だ。高齢化で地域がだめになってしまうのなら、すべての地域がだめになっているはずだ。でも実際には高齢化していても、活発なところはある。「高齢化」は「やらない」の口実ではない。それに、一部のみに活動を任せているから、活動が続かない。みんなが少しずつやることによって、活動も苦にならないはずだ。」と説きました。

それから、皆で活動方法を見直したところ、翌年のアンケートでは「愛護会を解散したい」と言う声は少数になったとのことでした。

皆さんの愛護会でも、一部の人のみに負担がかかっていることはありませんか？みんなが、少しずつ活動することにより、楽しく愛護会活動ができるのではないのでしょうか。

これらの事例が、すべての愛護会にあてはまるものでもありませんが、現状の状況を変えたいというご希望があれば、公園愛護会等コーディネーターにご相談ください。



公園愛護会等 コーディネーター 便り

地域の中を飛び回り、皆様とともに考え、行動する、公園愛護会と行政の調整者「公園愛護会等コーディネーター」。

◆今回は鶴見区の鶴見土木事務所の谷川コーディネーターからの発信です。



鶴見区制80周年記念事業～愛護会・保育園・地域の親子と花壇づくり

鶴見区は、今年10月区制80周年を迎えます。

この記念事業の一環として、区内の6公園（佃野公園・平安公園・生麦貝ノ浜緑地公園・東潮田公園・駒岡堂ノ前公園・馬場三丁目公園）で、近くの10保育園と公園愛護会、それに公園をよく利用される地域の親子の皆さんとで、花壇づくりを行いました。

4月に公園で牛乳パックを利用してマリーゴールド、サルビア等の種を蒔き、保育園・家庭等に持ち帰り水やりをしながら大切に育ててきました。7月には見事に花を咲かせ、花壇に植付けしました。

また、花壇お披露目のテープカットや、園児たちが作った花壇に設置する記念看板の除幕式も行いました。参加者にとって心に残る貴重な体験となったものと思います。

9月から10月にかけて記念植樹も予定しております。

鶴見区制80周年記念事業のイベントが10月7日（日）に花月園競輪場を会場に実施されますが、これまでの活動をパネルにして展示し、地域交流の場としての公園の楽しさを、土木事務所から多くの人に発信したいと考えております。

（鶴見土木事務所 電話：045-510-1673）



駒岡堂ノ前公園（種まき）
（駒岡保育園）



平安公園（水やり）
（芦穂崎保育園）



馬場三丁目公園（記念看板）
（馬場保育園）



東潮田公園（除幕式）
（潮田保育園）



佃野公園（テープカット）
（鶴見保育園他）



生麦貝ノ浜緑地公園
（花苗の植付）（生麦保育園他）

花壇づくりも環境に優しく ～ナチュラルガーデニング実験中です～

ナチュラルガーデニングという言葉をご存知ですか？

一言で言えば、「その土地にもともと備わっている自然の性質にできるだけ逆らわない庭づくりをめざそう」という考え方のことです。

土地の気象や土壌といった風土に合った植物を選び、自然な状態に倣って植えることで、植物が本来持っている特長を活かした、気候風土にあった花壇や庭を作ることができ、水やりの回数が減る、除草の手間が減る、季節を感じながら心地よく過ごせる、などの嬉しい効果も期待できます。

先日、保土ヶ谷区の児童遊園地（保土ヶ谷区）で職員がこうしたナチュラルガーデンづくりの手法を学ぶ講習会を行い、現在その後の状況を観察しています。

経過については紙面などでまた報告しますので、どうぞご期待ください。



各区(土木事務所)の取組み

80千本植樹行動について ～保土ヶ谷区制80周年記念事業～



みんなで取り組む

150万本植樹行動

暮らしに緑を 街に緑を!

©City of Yokohama

150万本植樹行動のロゴマーク

保土ヶ谷区では、全市的な取組みである「150万本植樹行動」を受け、保土ヶ谷区制80周年記念事業のひとつとして、「保土ヶ谷80千本植樹行動」を進めています。区民・事業者・行政の協働によって緑あふれる保土ヶ谷をつくり、子や孫の世代に引き継ぐため、平成21年度までに様々な取組みを展開していきます。

今年、相鉄線和田町駅前広場でのケヤキ植樹及び苗木配布(平成19年3月)、「ほどがや谷花フェスタ2007」会場での苗木配布(5月)、区内施設7箇所での「緑のカーテン」設置(6月～)をはじめとする取組みを行ってきました。10月には「区の木」を選定し、苗木配布や区民参加の植樹活動を行う予定です。

なお、80千本植樹行動では、区民のみなさんが植えた木もカウントしています。ラベンダーやローズマリー等、気軽に植えられる木本性植物もあるので、公園愛護会活動や普段の暮らしの中に取り入れる工夫をしてみてください。

(保土ヶ谷土木事務所 電話:045-331-4445)



「ほどがや花フェスタ」での苗木配布

愛護会で植樹や樹木の手入れの活動をしたり、ご自分のお庭に木を植えたり、ベランダに鉢植えの木を飾ったら、「150万本植樹行動」に登録をしましょう。登録方法は、専用リーフレット、または横浜市ホームページをご覧ください。(愛護会の登録用紙はホームページ参照又は各区土木事務所にお問い合わせを)

【150万本植樹行動ホームページ】

150万本

検索

(<http://www.city.yokohama.jp/me/kankyoevent/150green/>)

(環境政策課 電話:045-671-2688)

★ 横浜市からのお知らせ ～公園施設の安全確保について～ ★

日頃より公園愛護会活動にご尽力いただき誠にありがとうございます。

本年6月20日及び7月5日に公園の遊具が倒れ、児童が怪我をするという事故が連続して発生しました。公園愛護会長ならびに会員の皆様には大変ご心配をおかけしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

横浜市では再発防止に向けた取組みの一環として、8月に公園の遊具やあすまや等の施設について緊急点検を実施いたしました。

点検の結果、異常が認められたものや、スプリング遊具等で一定年数を経過しているものについて、現在使用禁止としております。これらについては、順次詳細な点検を行った上で、補修あるいは施設の撤去を実施してまいります。しばらくの間ご不便をおかけしますが、ご理解賜りますようお願いいたします。

今後このような事故が二度とおこることがないように安全管理を徹底強化し、安全な公園づくりをすすめてまいりますので、引き続き地域の公園を温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。

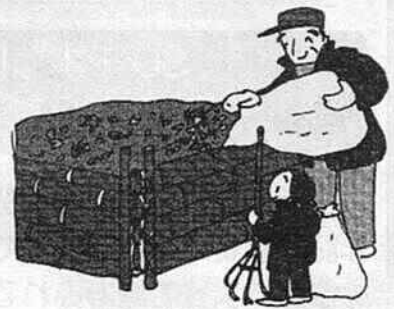
(土木事務所、水・緑管理課 電話:045-671-3848)

堆肥置場の切返しをしよう！

横浜市では公園愛護会の皆様への支援のなかで、公園の落葉を活用して堆肥を作るための堆肥置場の設置を行っています。

ごみの減量や資源の有効活用になる堆肥作りですが、もう一手間ですらに効果的になるのをご存知ですか？

今回は「切返し」という堆肥置場の手入れ法をご紹介します。



■微生物にも水と空気が必要

堆肥は落ち葉の表面についたたくさんの微生物が、落葉の繊維や有機物を分解することで作られます。

このとき主に働くのは「好気性」と言う、働くのに水と酸素を必要とする微生物たちです。

そのため、いい堆肥を作るには、落葉の適度な水分と空気の量を保ち、微生物の働きを助けてやるのが大切です。

■とても大事な「切返し」

微生物が落葉を分解するとき熱が発生します。そのため水が蒸発し、外気と触れる外側が乾燥がちになります。

また、微生物が増えると、中心部で酸素が不足がちになり働きが弱くなってしまいます。

そのために行うのが、「切り返し」です。スコップなどを使って、落葉のままになっている外側の部分を、堆肥化が進んだ中心付近と入れ替えてやることで、堆肥全体に空気と水分を補給し、微生物の働きを再び活性化することができます。最後に軽く水をかけるとさらに効果的です。

■できた堆肥の活用

こうして月に一回ぐらいの切返しを行うと、半年ぐらいで真っ黒の「完熟堆肥」ができます。これは花壇などに最高の肥料となります。公園で生まれた落葉を公園に返すことで、花壇も公園も元気になる、というのはとても魅力的な取り組みですよ。

ちょっと手間はかかりますが、どうぞ挑戦してみてください！

参考文献「図解バラダ・庭先でコンパクト堆肥（農山漁村文化協会）」

お知らせ

★ 来年度の愛護会制度について ★



今年度はすでに7割を超える愛護会で新制度を選択していただいておりますが、すでにお知らせのとおり、従来型の愛護会費のみの支援である「経過措置」制度は今年度を持ちまして終了いたします。これに伴い、来年度からは愛護会費のほかに、技術支援や物品支援を行う「新制度」に統一されます。

新制度になって3年目となり、皆様からのご意見を伺うためにアンケートを実施しました。愛護会の皆様には、お忙しい中ご協力をいただき、ありがとうございました。今後、アンケートやご提出いただいております活動報告書の分析を行い、より良い制度を検討してまいります。

横浜市環境創造局環境活動事業課発行（季刊）

〒231-0017 横浜市中区港町1-1

e-mail: ks-aigokai@city.yokohama.jp

【公園管理・公園愛護会通信部数に対するお問い合わせは、各土木事務所にご連絡をお願いします。】

電話：045-671-2650 FAX：045-224-6627

発行日：平成19年10月3日

横浜市広報印刷物登録第190173号種別・分類C-KJ110